

等從<sup>リ</sup>昔來<sup>シ</sup>數<sup>ハク</sup>聞<sup>ク</sup>世尊說<sup>フ</sup>未曾聞<sup>ク</sup>如是深妙之上法<sup>ヲ</sup>等云云。傳教大師云、我等從昔來數聞世尊說謂<sup>トハフ</sup>昔聞<sup>ケルヲ</sup>法華經前說華嚴等大法<sup>ヲ</sup>也。未曾聞如是深妙之上法謂<sup>トハフ</sup>未曾聞<sup>タカ</sup>法華經唯一佛乘教<sup>ヲ</sup>也等云云。華嚴・方等・般若・深密・大日等の恆河沙の諸大乘經は、いまだ一代、肝心たる一念三千大綱骨髓たる二乗作佛久遠實成等<sup>ヲ</sup>いまだきかずと領解せり。

①又今よりこそ諸大菩薩も梵・帝・日月・四天等も教主釋尊の御弟子<sup>ミデシ</sup>にては候へ。されば寶塔品には、此等の大菩薩を佛我が御弟子等とをぼすゆへに諫曉<sup>シテク</sup>云、告諸大衆<sup>ニ</sup>我滅度<sup>ノ</sup>後誰能護<sup>ク</sup>持讀誦<sup>シスル</sup>此經<sup>ヲ</sup>今於<sup>テ</sup>佛前<sup>ニ</sup>自說誓言<sup>ヲ</sup>とは、したたかに仰下<sup>セテ</sup>しか。又諸大菩薩も譬如<sup>ハシ</sup>大風吹<sup>ク</sup>小樹枝<sup>ヲ</sup>等と、吉祥草の大風に隨<sup>ヒ</sup>、河水の大海へ引<sup>ク</sup>がごとく、佛には隨<sup>ヒ</sup>まいらせしか。而<sup>レ</sup>ども靈山日淺くして夢のごとく、うつゝならずありしに、證前の寶塔の上起<sup>ニ</sup>後の寶塔あて、十方の諸佛來集せる、皆我が分身なりとなのらせ給<sup>ヒ</sup>、寶塔は虛空に、釋迦・多寶坐を竝べ、日月の青天に竝出<sup>ビヤルシクツ</sup>せるがごとし。人天大會は星をつらね、分身の諸佛大地の上寶樹<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup>師子のゆかにまします。華嚴經の蓮華藏世界は十方此土の報佛各々に國々にして、彼界の佛、此土に來て分身となのらず。此界の佛、彼の界へゆかず。但法慧等の大菩薩のみ互<sup>ニ</sup>に來會せり。大日經・金剛頂經等の八葉九尊。

三十七尊等、大日如來の化身とわみゆれども、其化身、三身圓滿の古佛にあらず。大品經の千佛・阿彌陀經の六方諸佛、いまだ來集の佛にあらず。大集經の來集の佛、又分身ならず。金光明經の四方四佛化身なり。總て一切經の中に各修各行の三身圓滿の諸佛を集て我分身とわとかれず。これ壽量品の遠序なり。始成四十餘年の釋尊、一劫十劫等已前の諸佛を集て分身ととかる。さすが平等意趣にもにず、をびただしくをどろかし。又始成の佛ならば所化十方に充滿すべからざれば、分身の徳は備たりとも示現してゑきなし。天台云、分身既多、當知成佛久矣等云云。大會のをどろさし意をかゝれたり。其上に地涌千界の大菩薩大地より出來せり。釋尊に第一の御弟子とをぼしき普賢・文殊等にもにるべくもなし。華嚴方等・般若・法華經の寶塔品に來集せる大菩薩、大日經等の金剛薩埵等の十六大菩薩なんども、此の菩薩に對當すれば獼猴の群中に帝釋の來給がごとし。山人に月卿等のまじわれるにことならず。補處の彌勒猶迷惑せり。何況其已下をや。此千世界の大菩薩の中に四人の大聖まします。所謂上行・無邊行・淨行・安立行なり。此の四人は虚空靈山の諸大菩薩等、眼もあはせ心もをよばず。華嚴經の四菩薩・大日經の四菩薩・金剛頂經の十六大菩薩等も、此の菩薩に

①わ=は(前) ②わ=は(前) ③群十(る)(前) ④われ=は(前) ⑤[大]-前